

スマートシティ検討WG（第2回）資料

九州大学箱崎キャンパスのまちづくりについて

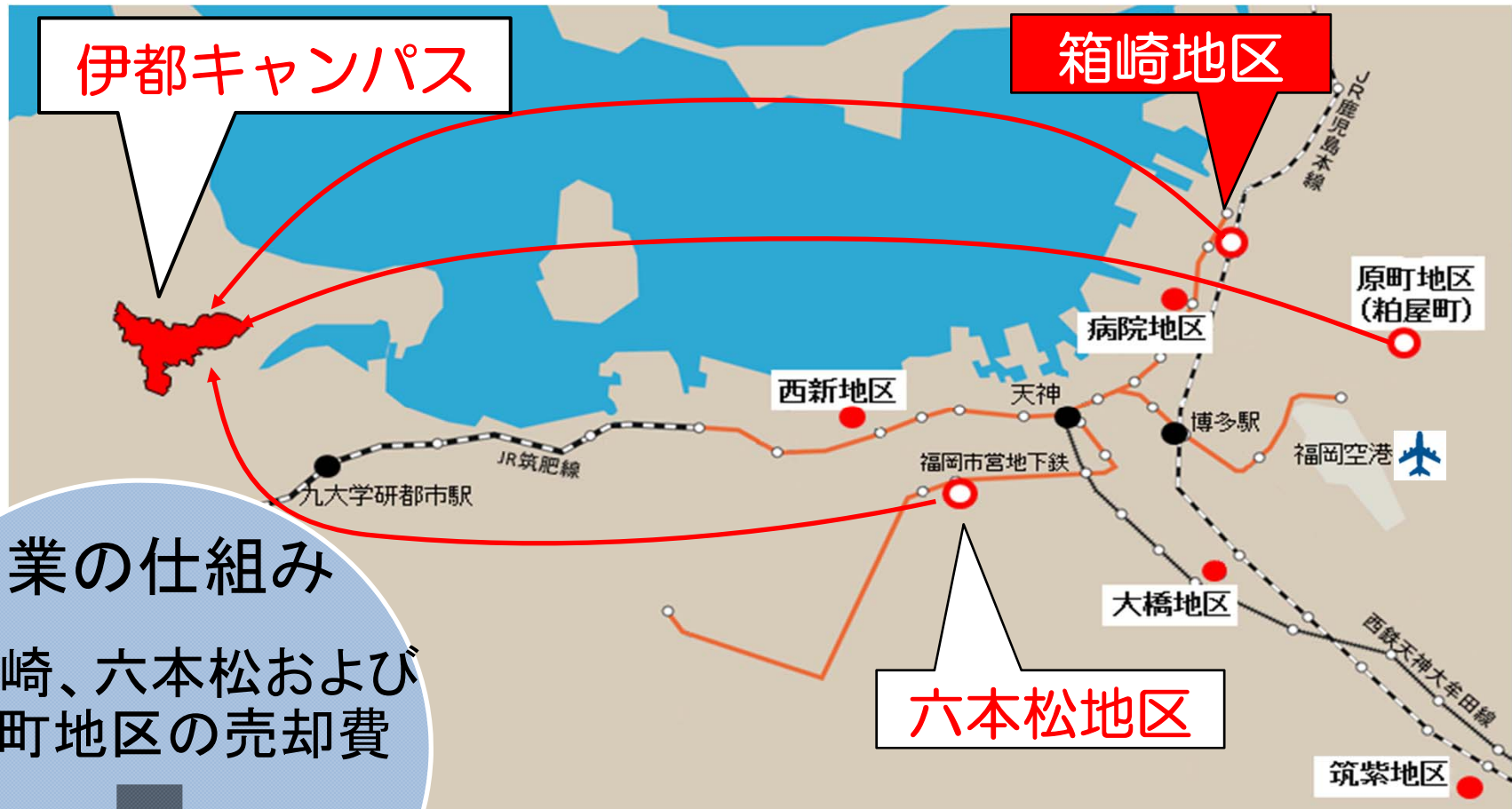
平成28年11月



福岡市ICT活用プラットフォームの取組みについて

箱崎のまちづくりの紹介

■九州大学統合移転事業



事業の仕組み

- ・箱崎、六本松および原町地区の売却費



- ・伊都キャンパス整備費

■ 第9次福岡市基本計画



○機能充実・転換する地区（九州大学箱崎キャンパス）

市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学の移転進捗を踏まえ、新たな都市機能の導入などを検討する地区

■ 箱崎の位置・面積

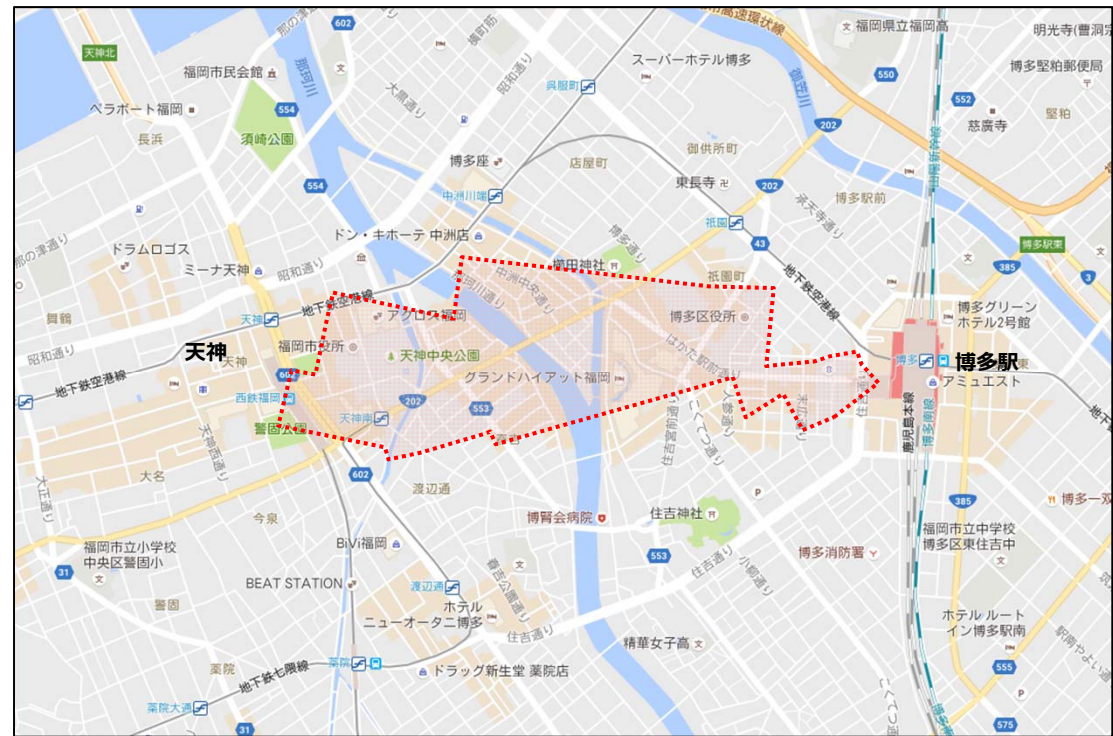


■面積の比較（1）

【箱崎のまちづくり検討区域】



【天神地区，博多駅周辺地区（福岡市）との比較】



■面積の比較（2）

【東京駅周辺地区（東京都）との比較】



【大阪駅周辺地区（大阪市）との比較】



【跡地利用将来ビジョン [H25.2策定]】

(検討委員会が九州大学総長・福岡市長へ提言)

■まちづくりの方針

- 方針1** 福岡市の持続的な成長に資する
新たな活力・交流を生み出す
 (例)広域行政機能 東京圏バックアップ機能
 成長・活力・交流
- 方針2** 九州大学が存在した地として、
**充実した教育・研究の環境を生みだし、
 人を育てる** (例)教育・人材育成機能
 教育・研究
- 方針3** 高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、
安全・安心・快適で健やかに暮らす
 (例)防災機能 医療・福祉機能
 安全・安心・健やか

〈跡地利用にあたって踏まえるべき視点〉

- 方針4** 千年のまち、大学百年の
歴史文化資源を大切にする
 (例)近代建築物の保存活用(または記録保存)
 歴史文化
- 方針5** 次世代の環境技術と豊かな緑を生かして、
環境と共生し、持続可能なまちをつくる
 (例)エネルギーマネジメントの導入
 環境・エネルギー

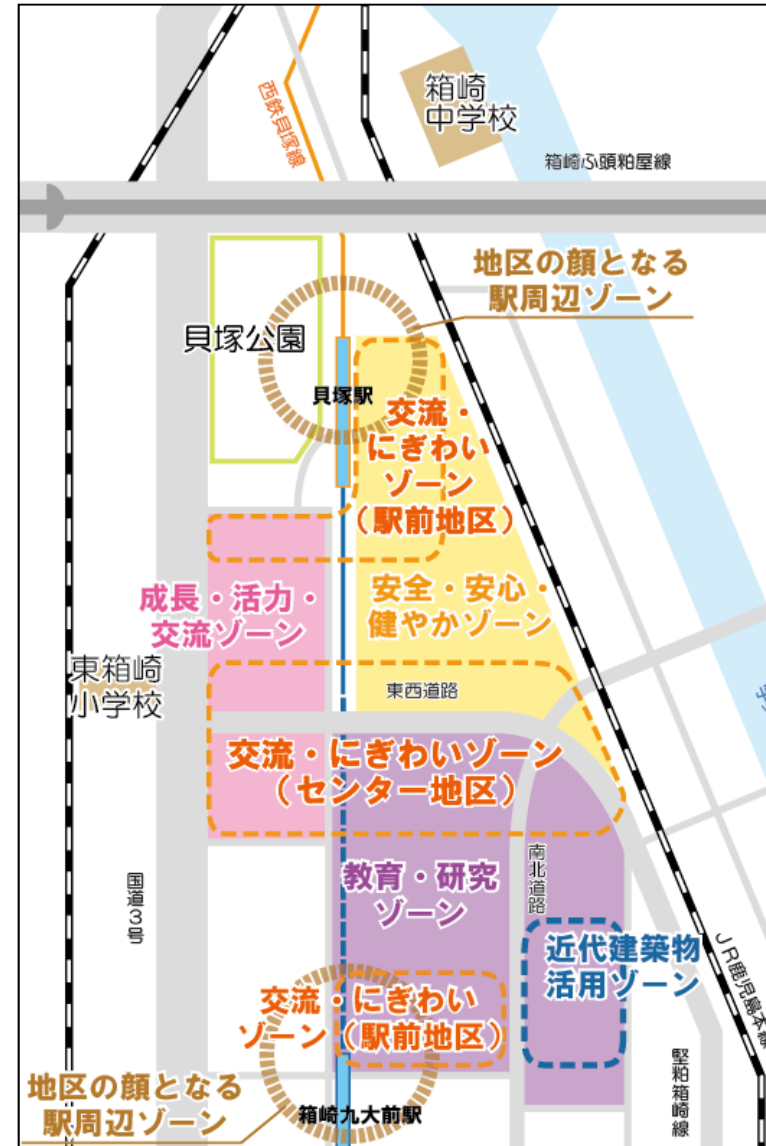
【まちづくり方針のキーワード】



【跡地利用計画 [H27.3策定]】

(九州大学・福岡市)

■土地利用の方針



■ 公共施設配置計画（公園・中学校）

公園

1) 目的

- ・身近な公園不足の解消
- ・貝塚駅の駅前広場の整備、にぎわい・交流機能導入とあわせた貝塚公園の再整備により、地域住民の利便性向上を図る。

2) 配置の考え方

- ・身近な公園が不足する南エリアに新規整備
- ・現貝塚公園付近に一部を再整備

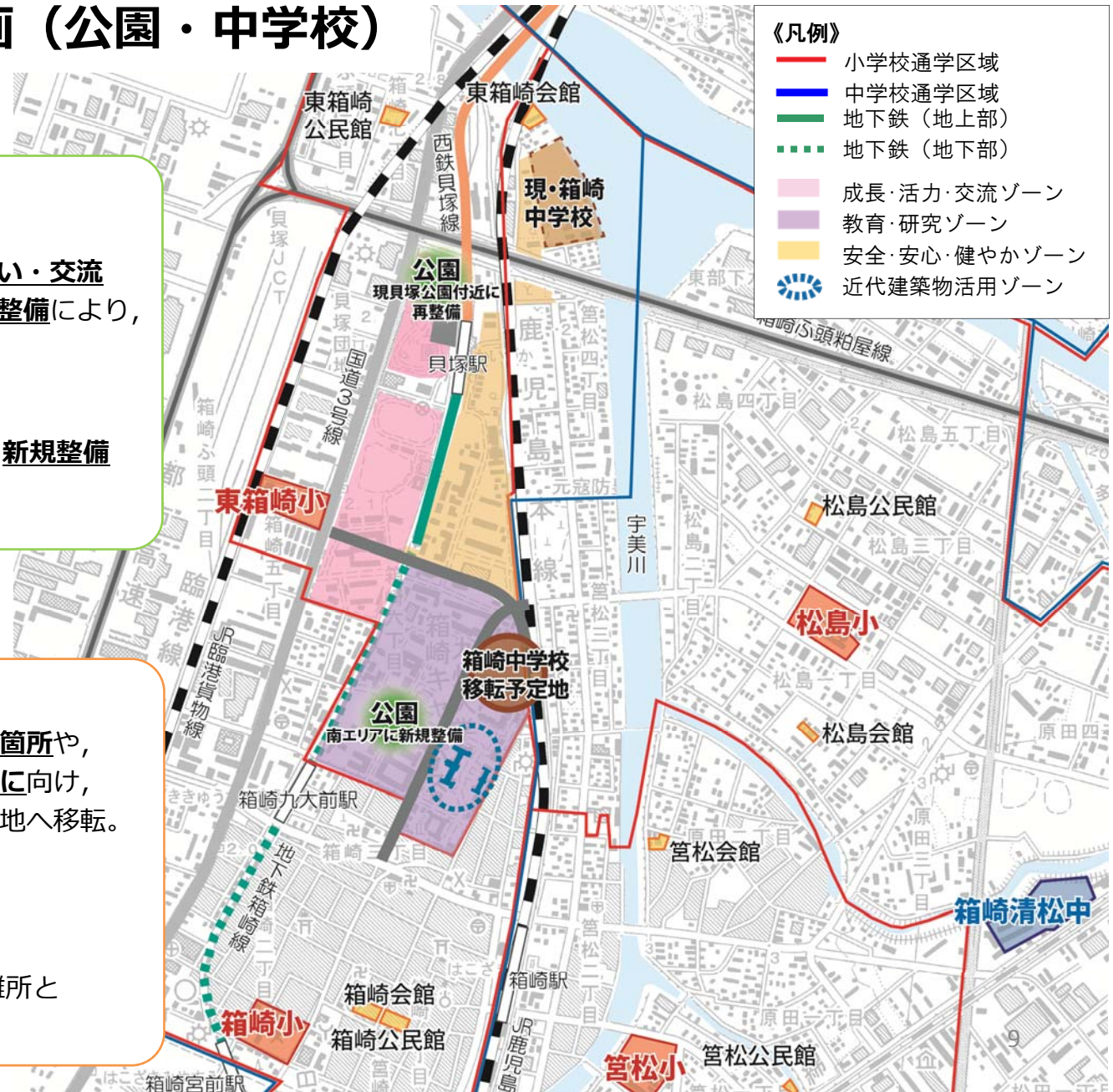
中学校

1) 目的

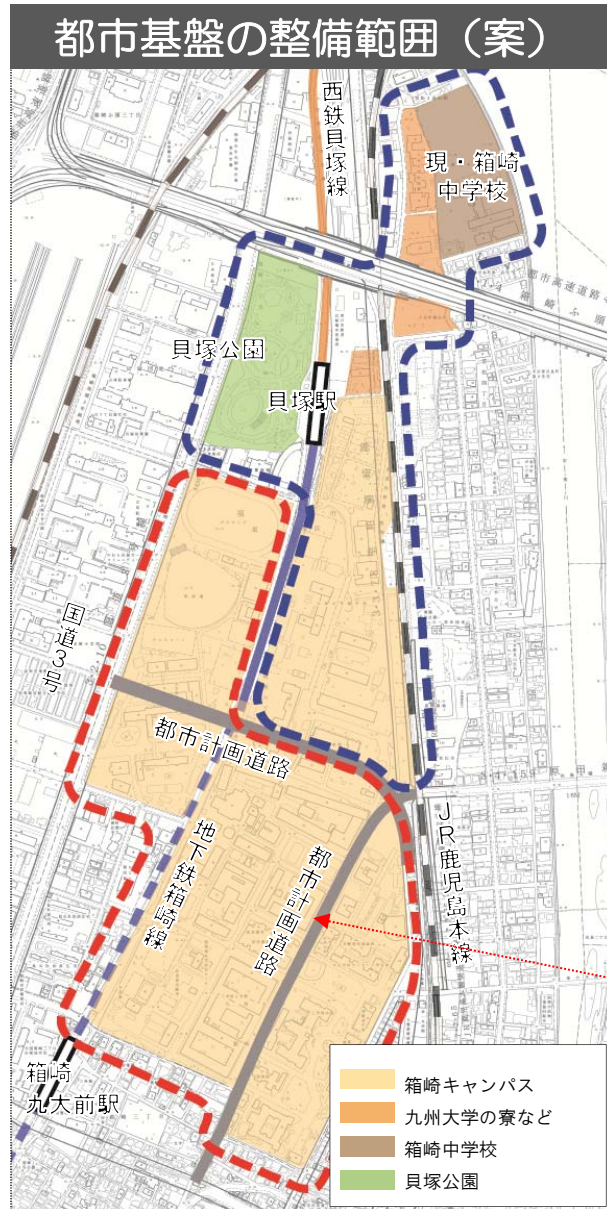
- ・校区の端に立地し、通学路の危険箇所や、河川に接する不安などの課題解消に向け、跡地のまちづくりにあわせて、跡地へ移転。

2) 配置の考え方

- ・周辺からアクセスが容易
- ・避難所として機能し、周辺の避難所とバランスがよい配置



■ 都市基盤の整備手法・主体等



北エリア（約20ha）

『福岡市』による『土地区画整理事業』

- 貝塚駅周辺を含む**脆弱な都市基盤の解消**および**総合的な交通結節機能の強化**（駅前広場整備，東西方向の連絡性向上など）
- 貝塚公園や箱崎中学校などの**公共施設の再配置と移転跡地の活用**
- 市有地や公共施設が多い中での**市の主体的な関与**

南エリア（約30ha）

『UR都市機構』による『開発行為』

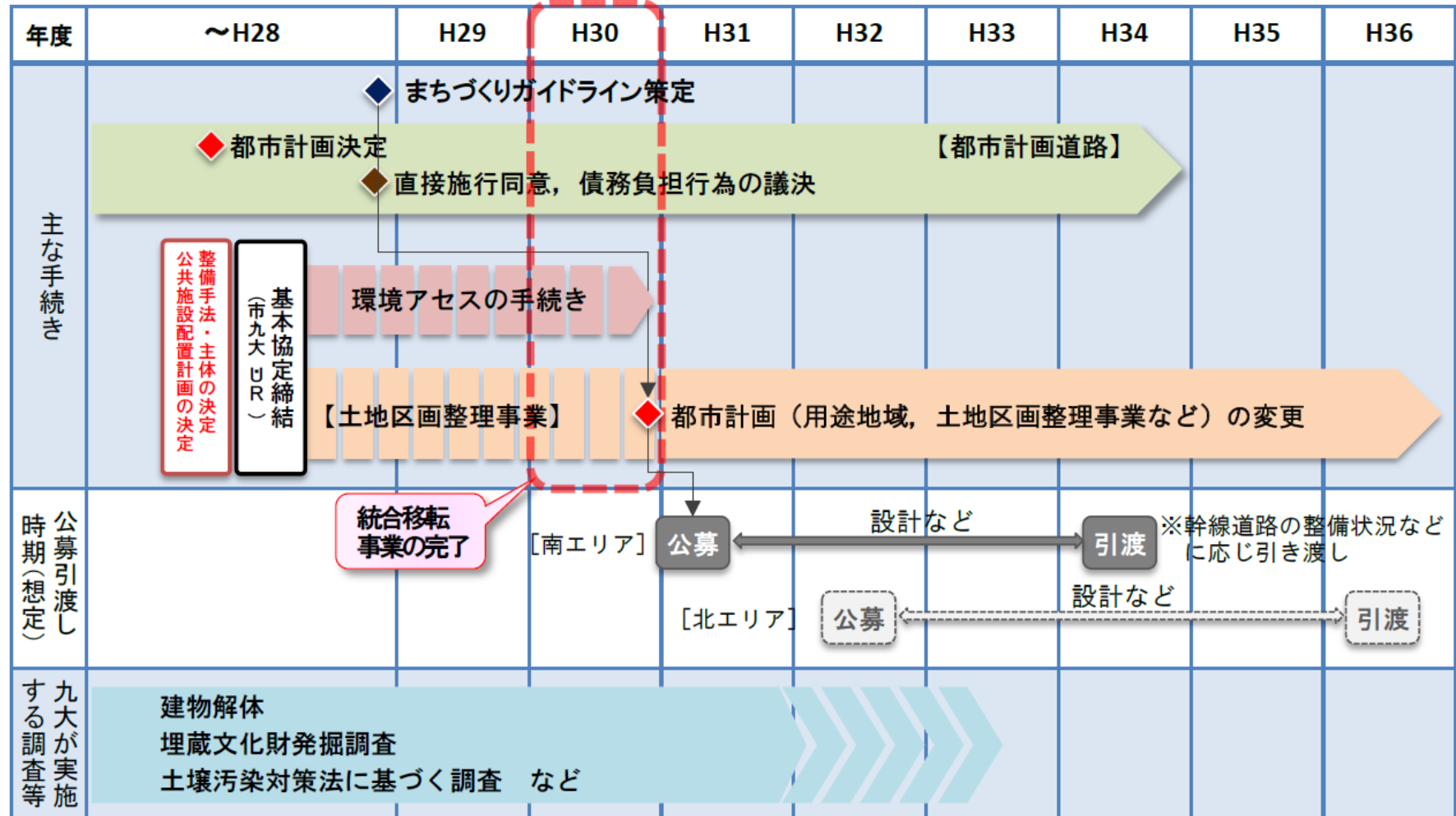
- 九州大学は，早期の資金確保と適切な土地処分のため，**迅速な都市基盤整備と土地の共有化**が可能な共同事業者として，**UR都市機構を選定**

※都市基盤整備を行う事業者は，九州大学の共同事業者（公募主体）となるため，土地利用事業には参画できない

『福岡市』は，『UR都市機構』による都市計画道路等の『直接施行制度』を活用

- 直接施行制度の活用により，**市の財政負担の軽減と平準化が可能**

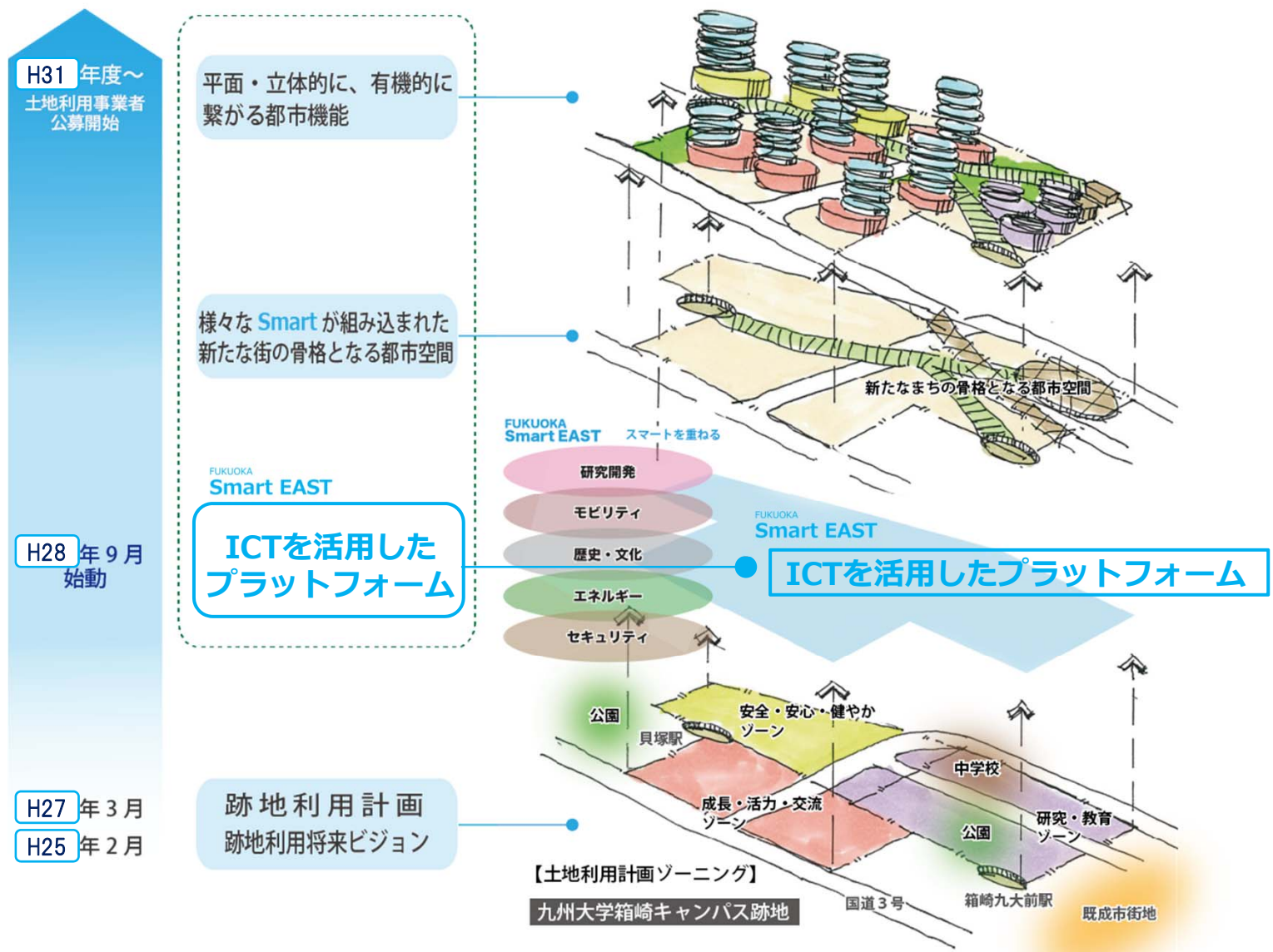
■ 土地処分スケジュールの見通し



福岡市ICT活用プラットフォームの取組みについて

箱崎で検討しているマネジメント

ICTを活用したプラットフォームの位置づけ



H31年度～
土地利用事業者
公募開始

平面・立体的に、有機的に
繋がる都市機能

様々な Smart が組み込まれた
新たな街の骨格となる都市空間

FUKUOKA
Smart EAST
**ICTを活用した
プラットフォーム**

FUKUOKA
Smart EAST
スマートを重ねる

- 研究開発
- モビリティ
- 歴史・文化
- エネルギー
- セキュリティ

ICTを活用したプラットフォーム

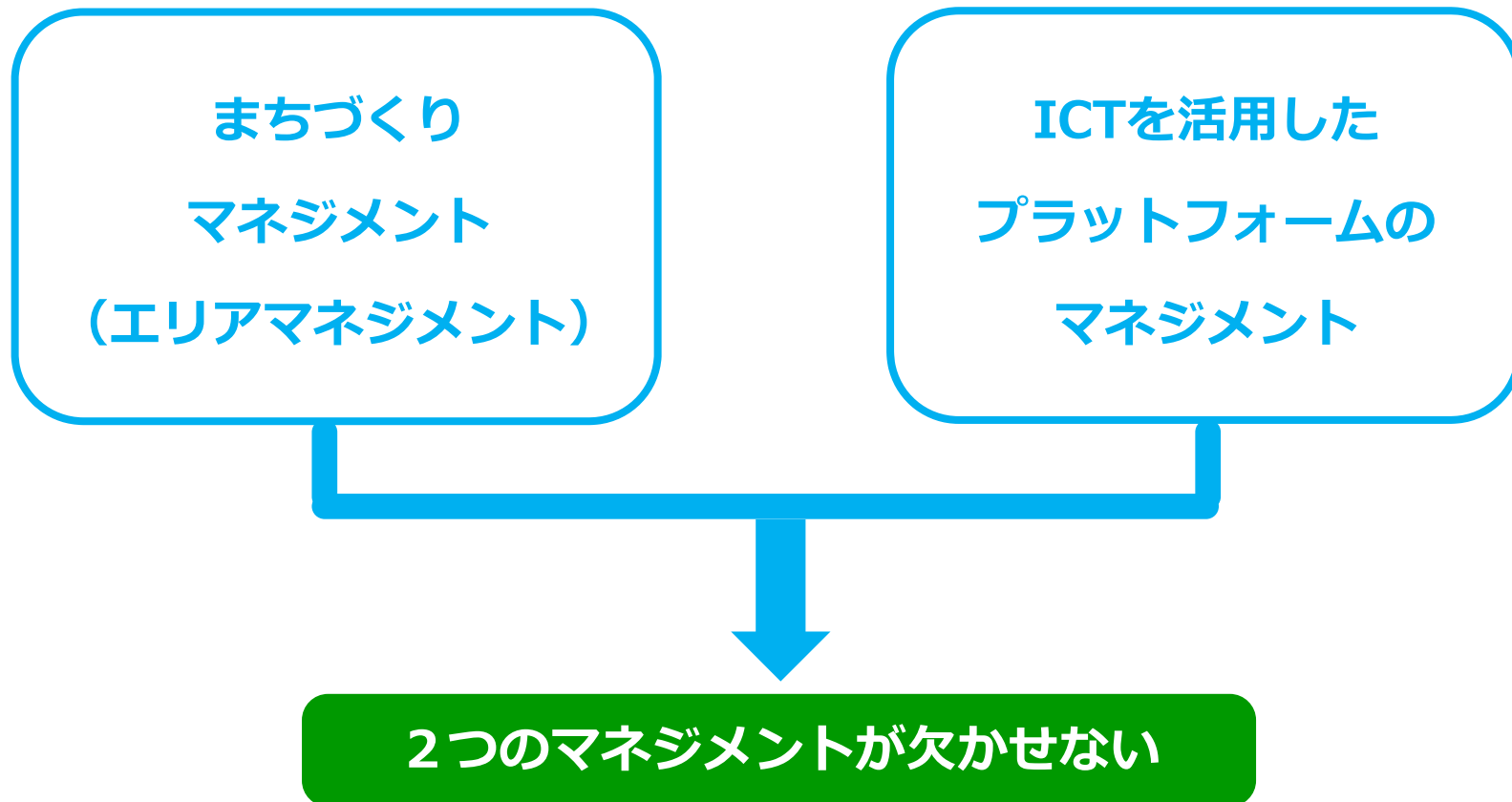
H28年9月
始動

跡地利用計画
跡地利用将来ビジョン

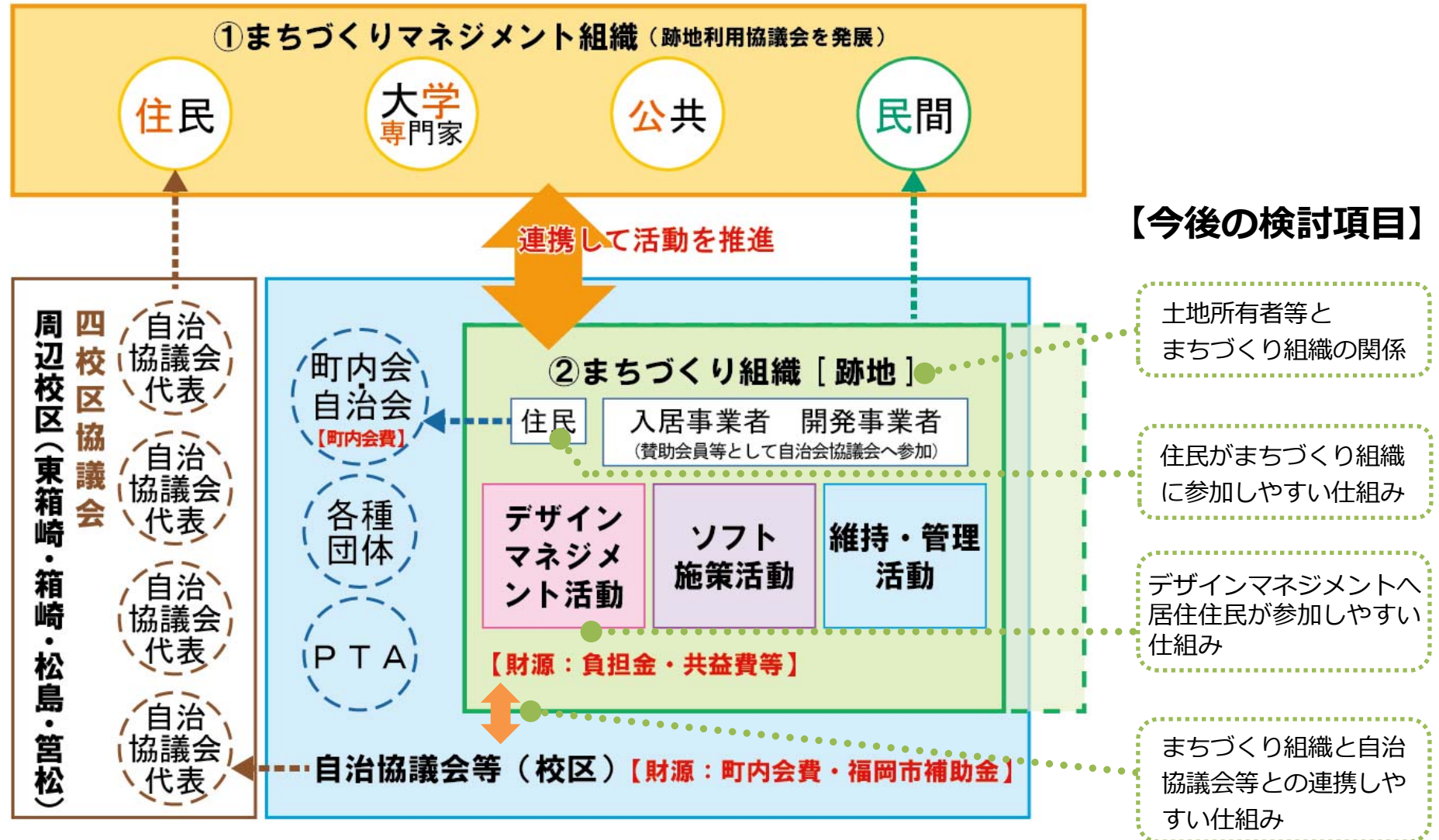
【土地利用計画ゾーニング】

九州大学箱崎キャンパス跡地 国道3号 箱崎九大前駅 既成市街地

H27年3月
H25年2月



■まちづくりマネジメントのイメージ



福岡市ICT活用プラットフォームの取組みについて

箱崎で検討している
「ICTを活用したプラットフォーム」

■ ICTやIoTを活用したマネジメント

研究開発

モビリティ

歴史・文化

エネルギー

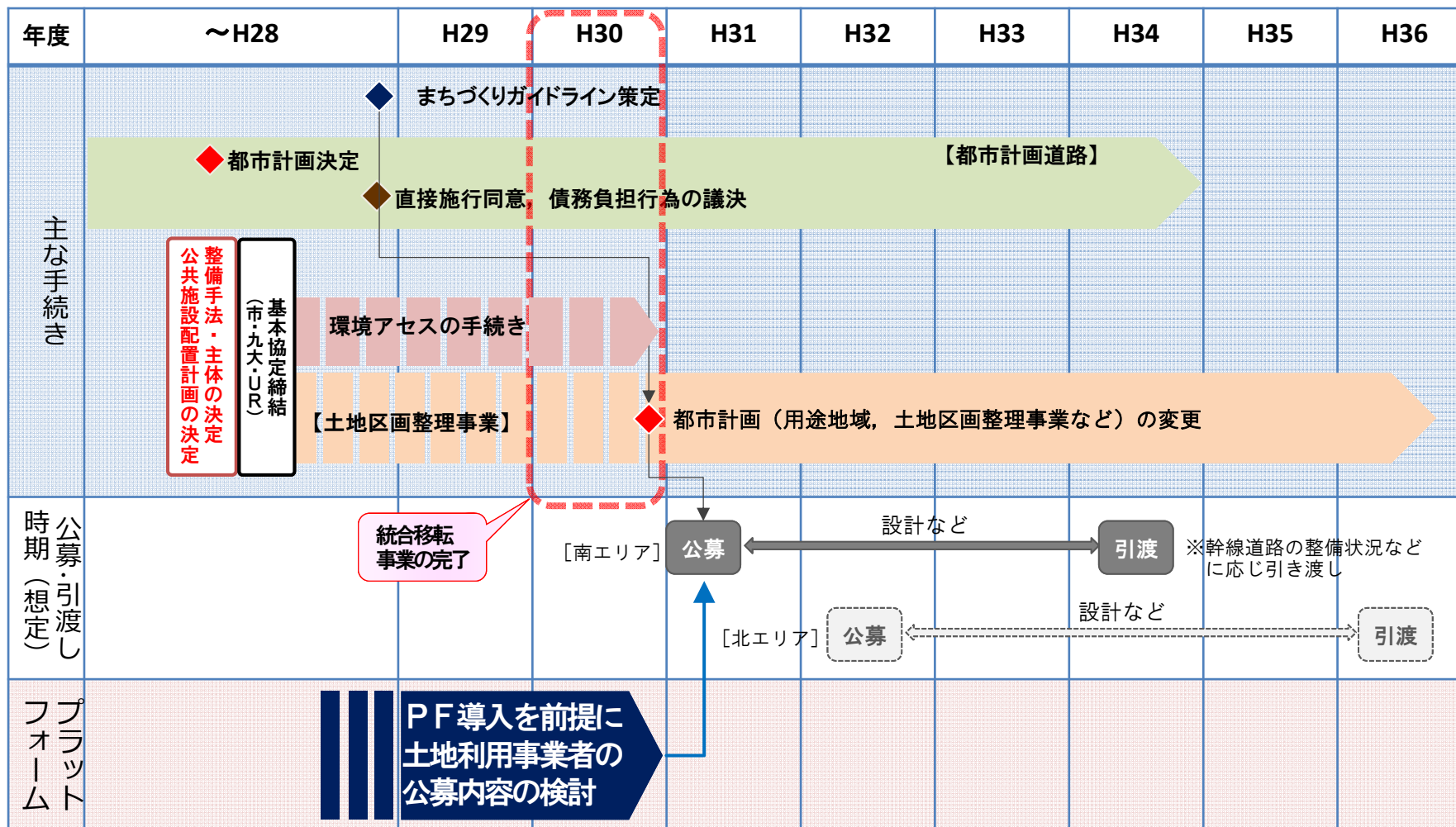
セキュリティ



- 様々なスマートのコーディネート
- ICTやIoTを活用したマネジメント
(先進性, 成長性, 可変性に対応した母体)

イノベーション・プラットフォーム

■ ICTを活用したプラットフォームのスケジュール



福岡市ICT活用プラットフォームの取組みについて

九州大学伊都キャンパスの事例 (自動運転バス)

- スマートモビリティ推進コンソーシアムを9月に設立
- 年内に実証実験を開始

< 目標 >

2018年度下期の九州大学伊都キャンパス内
自動運転バスのサービスインを目指すための実証実験



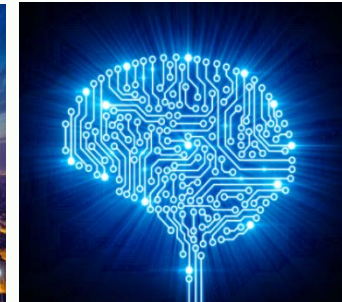
特徴①

公道での自動運転につながる
九大伊都キャンパスの環境



特徴②

ネットワーク&人工知能の活用による
交通サービスとしての
“もっと安心” “もっと便利”



特徴③

「レベル3.5」という、
早期導入と社会的意義を合わせた新概念